

学校不適應支援に関する調査 2026

【高等学校第2学年学年主任対象】

この度は調査へのご協力ありがとうございます。

○この調査は、いじめや不登校といった「学校不適應のある生徒への支援体制の現状」について、先生のお考えについてお聞きするものです。

○調査対象者は、高等学校第2学年学年主任の先生です。

○正しい答え・間違った答えなどはありませんので、ご回答される先生の思った通りにお答えください。

○本調査は統計処理をするので個人が特定・公表されることは一切ありません。また、結果につきましても、学術的な目的以外に使用いたしません。

○それぞれの質問をよく読み、該当する番号に○、または空欄に必要事項を記入してお答え下さい。

ご回答もれのないようお願いいたします。

東京学芸大学・橋本創一

【回答期限：9月7日(月)まで】

【1】ご回答される先生と学校（基本情報）についてお答えください。

(1) 貴校の所在地について選んでください。

☐東京都 ☐神奈川県 ☐埼玉県 ☐千葉県

(2) 貴校の学校種について選んでください。

☐高等学校 ☐中等教育学校 ☐その他()

(3) 貴校の設置種について選んでください。

☐公立校 ☐私立校 ☐国立校 ☐挑戦・その他

(4) 貴校の形態について選んでください。

☐共学校 ☐男子校 ☐女子校 ☐その他

(5) 貴校の生徒在籍数について選んでください。

☐～100名 ☐100名～200名 ☐200名～300名 ☐300名～400名 ☐400名～500名
☐500名～600名 ☐600名～700名 ☐700名～800名 ☐800名～900名 ☐900名～1000名
☐1000名以上

(6) 受験時における貴校のおおよその偏差値帯について選んでください。

☐40未満 ☐41～50 ☐51～60 ☐61～70 ☐71以上 ☐不明

(7) ご回答されている先生の性別について選んでください。

☐男性 ☐女性 ☐その他

(8) あなたの教員勤務年数(教員経験年数)について選んでください。

☐5年未満 ☐5年以上10年未満 ☐10年以上20年未満 ☐20年以上

(9) あなたの現任校での在職年数について選んでください。

☐1年未満 ☐1年以上3年未満 ☐3年以上5年未満 ☐5年以上10年未満 ☐10年以上20年未満
☐20年以上

【2】不登校の早期支援のために行っている取り組みについてお答えください。

★1 生徒の「不登校傾向(登校しぶり等)」を早期に特定するために、日頃の観察や情報把握において、以下の「初期サイン(予兆)」をそれぞれどの程度重視していますか。それぞれあてはまる番号に○をつけてください。

① 朝の遅刻・欠席の増加

☐1 全く重視していない ☐2 ☐3 ☐4 ☐5 非常に重視している

② 保健室の利用頻度の増加

☐1 全く重視していない ☐2 ☐3 ☐4 ☐5 非常に重視している

③ 授業中の居眠りや意欲の低下

☐1 全く重視していない ☐2 ☐3 ☐4 ☐5 非常に重視している

④ 友人関係の急激な変化や孤立

☐1 全く重視していない ☐2 ☐3 ☐4 ☐5 非常に重視している

□1 全く重視していない □2 □3 □4 □5 非常に重視している

☐1 全く重視していない ☐2 ☐3 ☐4 ☐5 非常に重視している

()

⑦ 定期的なアンケートの実施（学校適応感やメンタルヘルスの調査、登校しぶりのスクリーニング等）

⑧ 組織的な情報共有体制の確立（学年会議やケース検討会での、気になる生徒の情報共有やアセスメントのルーティン化）

⑨ 専門職を活用した面接体制の構築（スクールカウンセラー（SC）等による、全員面接や重点的な面接の実施）

⑩ 予防的心理教育プログラムの実施（ストレスマネジメント教育、構成的グループエンカウンター等の授業実践）

⑪ 保護者との連携（不登校の前段階・登校しぶりの時期における保護者からの早期相談対応）

☐全く実施していない ☐あまり実施していない ☐ある程度実施している ☐組織的に実施している

⑪—2 上記で「ある程度実施している」「組織的に徹底して実施している」と回答した取り組みについて、具体的な実践内容（例：使用しているアンケート名、ケース検討会の頻度、心理教育の実施回数など）を教えてください。

()

① 初期段階での学年主任の介入：不登校傾向の初期段階から、学年主任が面談（生徒または保護者）に

積極的に同席・介入している。

☐1 全くあてはまらない ☐2 ☐3 どちらともいえない ☐4 ある程度あてはまる ☐5 非常にあてはまる

② 初期段階での教育相談担当の介入：不登校傾向の初期段階から、学年内の教育相談担当教員が面談に積極的に同席・介入している。

☐1 全くあてはまらない ☐2 ☐3 どちらともいえない ☐4 ある程度あてはまる ☐5 非常にあてはまる

③ 学級担任単独による初期対応：初期対応は基本的に学級担任が単独で行い、学年主任や組織への相談・報告にとどめている。

☐1 全くあてはまらない ☐2 ☐3 どちらともいえない ☐4 ある程度あてはまる ☐5 非常にあてはまる

④ 深刻化してからの学年主任の介入：対応が長期化、あるいは単位欠時などの問題が深刻化（重篤化）してから、学年主任が直接面談に関わっている。

☐1 全くあてはまらない ☐2 ☐3 どちらともいえない ☐4 ある程度あてはまる ☐5 非常にあてはまる

⑤ スクールカウンセラー（SC）の面談同席：スクールカウンセラー（SC）を三者面談や保護者面談に積極的に同席させている。

☐1 全くあてはまらない ☐2 ☐3 どちらともいえない ☐4 ある程度あてはまる ☐5 非常にあてはまる

⑥ スクールソーシャルワーカー（SSW）の面談同席：スクールソーシャルワーカー（SSW）を三者面談や保護者面談に積極的に同席させている。

☐1 全くあてはまらない ☐2 ☐3 どちらともいえない ☐4 ある程度あてはまる ☐5 非常にあてはまる

⑦ 養護教諭の面談同席：養護教諭を面談に積極的に同席させている。

☐1 全くあてはまらない ☐2 ☐3 どちらともいえない ☐4 ある程度あてはまる ☐5 非常にあてはまる

⑧ 心理ケアと進路指導の並行実施：面談において、生徒の心理的ケア（不安の傾聴等）と、今後の進路指導（キャリア支援・留年対策等）を切り離さず、同時に並行して進めている。

☐1 全くあてはまらない ☐2 ☐3 どちらともいえない ☐4 ある程度あてはまる ☐5 非常にあてはまる

【4】キャリアカウンセリング領域に関する支援についてお答えください。

【以下のそれぞれの項目について、不登校の生徒（不登校傾向を含む）に対して行っている関わりとして、1. 全くおこなっていない、2. あまりおこなっていない、3. どちらともいえない、4. ある程度おこなっている、5. 十分におこなっている のうち、もっともあてはまる番号に○をつけてください。】

- ① 生徒が自身の長所や得意なことに気づき、自己肯定感を高められるよう援助している。（例：活動成果や作品を具体的に褒める等）

☐1 全く行っていない ☐2 ☐3 ☐4 ☐5 十分に行っている

- ② 生徒が不登校に伴う不安やストレスに対処する方法（コーピング）を一緒に考えている。（例：リラックスできる呼吸法を教える等）

☐1 全く行っていない ☐2 ☐3 どちらともいえない ☐4 ある程度行っている ☐5 十分に行っている

- ③ 生徒が自分の現在の状態（学校に行けない現状など）をありのまま受け入れられるよう情緒的に支えている。（例：登校できない罪悪感を和らげる等）

☐1 全く行っていない ☐2 ☐3 どちらともいえない ☐4 ある程度行っている ☐5 十分に行っている

- ④ 生徒が自らの苦手さやうまくやれないことを理解し、それも自分の一部分として受け入れられるよう（自己受容）援助している。

☐1 全く行っていない ☐2 ☐3 どちらともいえない ☐4 ある程度行っている ☐5 十分に行っている

- ⑤ 保健室や面接の場で、生徒が安心して他者（教師や他の生徒など）とコミュニケーションをとれる環境を整えている。

☐1 全く行っていない ☐2 ☐3 どちらともいえない ☐4 ある程度行っている ☐5 十分に行っている

- ⑥ 生徒が周囲の人々（家族、教師、友人など）の立場や気持ちを想像し、理解できるよう促している。

☐1 全く行っていない ☐2 ☐3 どちらともいえない ☐4 ある程度行っている ☐5 十分に行っている

- ⑦ 小集団活動や個別の関わりを通じて、生徒が集団内での自分の役割や居場所を見出せるよう援助している。

☐1 全く行っていない ☐2 ☐3 どちらともいえない ☐4 ある程度行っている ☐5 十分に

行っている

⑧ ソーシャルスキルトレーニング（SST）など、対人関係や社会的スキルを育成するための心理教育的アプローチを取り入れている。

☐1 全く行っていない ☐2 ☐3 どちらともいえない ☐4 ある程度行っている ☐5 十分に
行っている

⑨ 生徒が学業の遅れを取り戻すための具体的な学習計画の作成や、学習環境の調整をサポートしている。

☐1 全く行っていない ☐2 ☐3 どちらともいえない ☐4 ある程度行っている ☐5 十分に
行っている

⑩ 生徒が学校生活のルールや、遅刻・欠席をめぐる問題に対して自ら具体的な解決策を見出せるよう促している。

☐1 全く行っていない ☐2 ☐3 どちらともいえない ☐4 ある程度行っている ☐5 十分に
行っている

⑪ 生徒自身が今後の生活や進路に必要な情報（学校の制度やサポート機関など）を自ら調べ、選択できるよう援助している。

☐1 全く行っていない ☐2 ☐3 どちらともいえない ☐4 ある程度行っている ☐5 十分に
行っている

⑫ 生徒が一人で問題を抱え込まず、必要に応じて周囲の大人や友人に助けを求める力（援助要請スキル）を育む援助をしている。

☐1 全く行っていない ☐2 ☐3 どちらともいえない ☐4 ある程度行っている ☐5 十分に
行っている

⑬ 生徒が将来の生き方や就きたい職業について、前向きな展望（キャリアイメージ・キャリア意識）を持てるよう関わっている。

☐1 全く行っていない ☐2 ☐3 どちらともいえない ☐4 ある程度行っている ☐5 十分に
行っている

⑭ 元の教室への復帰だけでなく、多様な進路（通信制高校、定時制、サポート校、オルタナティブな学びの場、早期就職など）の選択肢を提示し、生徒自身の主体的な選択を尊重している。

☐1 全く行っていない ☐2 ☐3 どちらともいえない ☐4 ある程度行っている ☐5 十分に
行っている

⑮ 将来の目標や社会的自立に向けて、今どのようなステップを踏めばよいか、具体的な人生設計（ライフプラン）を一緒に組み立てている。

☐1 全く行っていない ☐2 ☐3 どちらともいえない ☐4 ある程度行っている ☐5 十分に
行っている

⑯ 現在の学校（保健室）生活やこれまでの経験（不登校の経験含む）が、将来の社会的自立や社会的な
役割にどうつながっているかを理解できるよう促している。

☐1 全く行っていない ☐2 ☐3 どちらともいえない ☐4 ある程度行っている ☐5 十分に
行っている

【五】不登校支援における困りごと・連携についてお答えください。

★1 学年主任の立場から、不登校（傾向）生徒への対応や進路指導（キャリア支援）を行うにあたり、どのような点に難しさや困り感（ストレス）を抱いていますか。それぞれ当てはまるものを1つ
選んでください。

① 本来業務の圧迫（個別対応や保護者対応、関係機関との調整等に多大な時間を割かれ、学年全体のマ
ネジメントや本来の校務が圧迫される）

☐全く感じない ☐あまり感じない ☐ある程度感じる ☐強く感じる

② 臨床的専門性の限界（高校段階における深刻なメンタルヘルス不調や複雑な家庭背景に対する自身の
心理的・臨床的専門性の限界）

☐全く感じない ☐あまり感じない ☐ある程度感じる ☐強く感じる

③ 同僚教員との温度差（学年スタッフ（担任等）の間で不登校対応への意欲や関わり方に大きな温度差
があり、足並みを揃えることの難しさ）

☐全く感じない ☐あまり感じない ☐ある程度感じる ☐強く感じる

④ 組織的助言の難しさ（高等学校特有の「出席日数・取得単位数」という客観的なタイムリミット（留
年・中退リスク）が迫る中での足並みの揃えにくさ）

☐全く感じない ☐あまり感じない ☐ある程度感じる ☐強く感じる

⑤ 進路選択の板挟み（生徒本人の進路希望（全日制の継続など）と実際の出席状況・学力との間に乖離
があり、現実的な進路変更を提案する際の葛藤）

☐全く感じない ☐あまり感じない ☐ある程度感じる ☐強く感じる

⑥ 役割・基準の曖昧さ（中学段階からの引き継ぎの不十分さや、校内での役割・評価の柔軟な代替措置
の基準が不透明なことによる苦慮）

☐全く感じない
 ☐あまり感じない
 ☐ある程度感じる
 ☐強く感じる

★2 不登校（傾向）生徒へのキャリア支援・保健室対応を行う際、校内のスタッフや外部機関とどの程度の頻度で情報を共有し、連携していますか。もっともあてはまる頻度に○をつけてください。

対象機関・スタッフ	全く連携していない	学期に1回程度	月に1回程度	週に1回程度	ほぼ毎日
1. 学級担任・学年教員	1	2	3	4	5
2. 教育相談（別室登校）担当教員	1	2	3	4	5
3. 特別支援教育コーディネーター	1	2	3	4	5
4. スクールカウンセラー（SC）	1	2	3	4	5
5. スクールソーシャルワーカー（SSW）	1	2	3	4	5
6. 管理職（校長・副校長等）	1	2	3	4	5

対象機関・スタッフ	全く連携していない	学期に1回程度	月に1回程度	週に1回程度	ほぼ毎日
7. 教育センター等（教育委員会含む）	1	2	3	4	5
8. 医療機関	1	2	3	4	5
9. 児童相談所・子ども家庭支援センターなど（福祉関係含む）	1	2	3	4	5

⑥—2 上記の連携の中で、不登校生徒の社会的自立（キャリア発達）を促す上で「特に有効に機能している連携」または「機能しておらず課題と感じる連携」があれば、その具体的な理由を教えてください。

（ ）

⑦ 現在の学校システムにおいて、不登校傾向のある生徒への「早期発見・キャリア支援（社会的自立に向けたアプローチ）」を充実させるために、今後どのような体制構築や支援（ガイドブックやマニュアル、研修等）が必要だと考えますか。あなたの意見を率率直にお書きください。

（ ）

【6】個別の事例についてお答えください。

あなたがこれまでに経験した「不登校（または不登校傾向）の児童生徒への対応」の中で、特に印象に残っている事例を1つだけ思い浮かべてください（「支援がうまく機能した事例」「困難を極めた事例」のいずれでも構いません）。以下の質問では、その事例についてお答えください。※個人が特定されないよう、配慮してお答えください。

☐校内のリソース（保健室、特定の教員、カウンセラー等）

☐外部機関（医療、適応指導教室等）

☐その他（ ）

⑧ 事例の経過の中で、状況が大きく動いた「ターニングポイント（良くも悪くも転機となった局面）」はどこでしたか。また、その際に行われた効果的なアプローチ（または課題となった対応）は何でしたか。できるだけ具体的に教えてください。

（
）

⑨ この事例の経験から得られた、「同様のケースに対応する際に重要となる視点や教訓」は何ですか。あなたの立場における組織対応やキャリア支援の観点も含めて、一般化できる知識として他者に伝えるとしたら、どのようなことになりますか。できるだけ具体的に教えてください。

（
）

【最後に】

学校不適応対応について、別途インタビュー調査にご協力いただける場合は、下記に学校名と担当者のお名前をご記入くださると幸いです。なお、これまでのご回答内容に関しましては、統計上の処理を施すため、学校名が特定されることは一切ございませんので、ご安心ください。

⑩ 学校名（ ）

⑪ 担当の先生のお名前（ ）

アンケートは以上で終了となります。ご協力いただき、ありがとうございました。